

新潟市教育ビジョンの施策評価について

新潟市教育ビジョンの令和元年度の実施状況について、有識者の知見を活用した評価を以下に示します。

1 令和元年度施策評価一覧

●施策評価の分布(全施策)

評価5 … 目標を上回って達成した施策	7.8%	} 84.3%	←平均評価5.0の施策数÷51施策×100
評価4 … 目標を概ね達成した施策	76.5%		←平均評価4.0以上評価5.0未満の施策数÷51施策×100
評価3 … 目標をもう少しで達成した施策	9.8%		←平均評価3.0以上評価4.0未満の施策数÷51施策×100
評価2 … 目標を下回った施策	2.0%		←平均評価2.0以上評価3.0未満の施策数÷51施策×100
評価1 … 目標を大きく下回った施策	3.9%		←平均評価1.0以上評価2.0未満の施策数÷51施策×100

●施策評価の分布(NEXT&NEW)

評価5 … 目標を上回って達成した施策	5.3%	} 89.5%	←平均評価5.0の施策数÷51施策×100
評価4 … 目標を概ね達成した施策	84.2%		←平均評価4.0以上評価5.0未満の施策数÷51施策×100
評価3 … 目標をもう少しで達成した施策	0.0%		←平均評価3.0以上評価4.0未満の施策数÷51施策×100
評価2 … 目標を下回った施策	0.0%		←平均評価2.0以上評価3.0未満の施策数÷51施策×100
評価1 … 目標を大きく下回った施策	10.5%		←平均評価1.0以上評価2.0未満の施策数÷51施策×100

基本施策 (13施策)		施策 (54施策) 網掛…[NEXT]&[NEW]に該当する施策		R1 施策評価	
1	確かな学力の向上	1―(1)	社会の変化や新たな課題に対応できる教育の推進	4.0	3.7
		1―(2)	学び続ける資質・能力を育むキャリア教育の推進	4.0	
		1―(3)	基礎・基本を身に付ける教育の推進	4.3	
		1―(4)	アグリ・スタディ・プログラムの推進	4.0	
		1―(5)	学習習慣の定着	4.0	
		1―(6)	読書活動の推進と新聞活用の充実	1.8	
2	豊かな心と健やかな体の育成	2―(1)	いのちの教育・心の教育の推進	4.3	3.7
		2―(2)	一人一人の成長を促す生徒指導の推進	4.0	
		2―(3)	体験活動・ボランティア活動の充実	4.0	
		2―(4)	文化・芸術活動体験の推進	4.5	
		2―(5)	体力づくりの推進	3.5	
		2―(6)	健康づくりの推進	2.8	
		2―(7)	食育の推進	3.2	
		2―(8)	青少年の健全育成の推進	4.0	
3	創造性に富み、世界と共に生きる力の育成	3―(1)	地域学習の充実	5.0	4.3
		3―(2)	外国語教育・国際理解教育の充実	4.0	
		3―(3)	情報教育の充実とICTを活用した教育の取組	4.7	
		3―(4)	主体的な取組を促す環境教育の推進	4.0	
		3―(5)	海外帰国・外国人児童生徒への教育の推進	4.0	
4	共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育システムの推進	4―(1)	子ども一人一人のニーズと課題に対応した特別支援教育の推進	1.0	3.7
		4―(2)	特別支援教育のサポート体制の推進	5.0	
		4―(3)	早期からの就学相談・支援の充実	5.0	
5	校種間・学校間連携を活かした特色ある学校・園づくり	5―(1)	新潟市にふさわしい小中一貫した教育の取組	4.0	4.1
		5―(2)	幼児教育の充実と幼保小連携の推進	4.3	
6	人権を守り共に支え合う社会の推進	6―(1)	人権教育、同和教育の推進、男女平等教育の推進	4.4	3.7
		6―(2)	交流・体験活動の推進	3.0	
7	家庭教育の充実と子育て支援	7―(1)	家庭教育充実への支援	4.0	4.5
		7―(2)	子育て支援の充実	5.0	
8	生涯を通じて学び育つ学習機会の充実	8―(1)	主体的な学習を支えるシステムづくり	4.0	4.1
		8―(2)	学び育つ各世代への支援	4.3	
		8―(3)	地域における生涯学習活動への支援	4.0	
9	地域と学校・社会教育施設が協働する教育の推進	9―(1)	地域と共に歩む学校づくりの推進	4.0	4.1
		9―(2)	広報広聴活動の推進	4.0	
		9―(3)	学校・地域・NPO等の協働の推進	4.0	
		9―(4)	高等教育機関及び企業との連携推進	4.7	
		9―(5)	子ども・保護者・地域住民の学校運営への参画	4.0	
		9―(6)	市民の生涯学習施設運営への参画	4.0	
10	学びのセーフティネットの構築に向けた取組の推進	10―(1)	防災・安全教育の充実	4.0	4.0
		10―(2)	保護者や地域と連携した安心な学校づくりの推進	4.0	
		10―(3)	安全な学校施設	4.0	
		10―(4)	学びを支える体制の整備と充実	4.0	
11	学校教育・生涯学習環境の基盤整備	11―(1)	効果的な指導を支援する施設設備の充実	4.0	3.9
		11―(2)	コミュニティの拠点としての学校整備	4.0	
		11―(3)	学校施設の整備	4.0	
		11―(4)	生涯学習施設を核とした学習環境の整備	3.7	
12	市民に信頼される教育関係職員の育成	12―(1)	教育関係職員の研修プログラムの充実	4.3	3.8
		12―(2)	教職員への支援体制の充実	3.0	
		12―(3)	信頼される教職員の採用・登用・配置	4.0	
		12―(4)	教育関係職員の人事管理の適正化	4.0	
13	ニーズと課題に応える教育行政の創造	13―(1)	新潟らしい教育改革の推進	4.0	4.0
		13―(2)	効果的・効率的な執行体制の整備	4.0	
		13―(3)	教育情報の収集と発信	4.0	
		13―(4)	学校適正配置	4.0	
		13―(5)	教育施策の管理と適切な評価	4.0	

2 主な施策・事業の評価状況

「NEXT」&「NEW」に該当する施策を取り上げています。

1 確かな学力の向上

1-（1） 社会の変化や新たな課題に対応できる教育の推進

主な事業 ・持続可能な開発のための教育(ESD)推進事業
 ・「アクティブ・ラーニング」による教育活動の推進
 ・アフタースクール学習支援事業

R1施策評価
4.0

【NEXT】

○確かな学力・豊かな心・健やかな身体を育む教育を進めます。

●施策の目標

指標1	ESDを自校の教育活動に位置付けている学校の割合(%)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		20.0	50.0	75.0	85.0	92.0	
進捗状況	-	42.5	72.0	85.0	91.0	96.0	
指標2	「アクティブ・ラーニング」を実施した学校の割合(%)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
進捗状況	92.0	95.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
指標3	放課後の学習支援をする中学校(校)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		56	56	56	56	56	
進捗状況	-	56	56	56	56	56	
指標4	環境教育に関する実践的な取組を広報する(回)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
進捗状況	1	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
指標5	環境教育事業の実施						R1評価
Ⅳ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
指標目標		実施	実施	実施	実施	実施	
進捗状況	実施	実施	実施	実施	実施	実施	

・すべての学校で、「アクティブ・ラーニング」を取り入れた教育活動が定着してきた。

○学校訪問を通じて、主体的・対話的で深い学びのある授業を推進するよう働き掛けてきた。その結果、「アクティブ・ラーニング」を進めることで子どもに社会の変化や課題に適切に対応できる力を育むことができる、という意識を教職員一人一人にもたせることができた。また、ESD(持続可能な開発のための教育)の概念が、各学校に浸透してきた。

○5月にアフタースクール学習支援員連絡会を行い、これまでの取組や留意事項について情報を共有した。全体での一斉授業と個別支援の両面から、生徒の能力やニーズに応じた学習支援を展開している。

○県が行っている水俣病発生地域間交流事業の依頼を受けて、2校(有明台小、阿賀小)が水俣市を中心とした現地学習を行った。さらに、今年度は水俣市から新潟市への受け入れも行った。その際の代表校2校(巻南小、小林小)が交流学习を行った。

1-（3） 基礎・基本を身に付ける教育の推進

主な事業 ・学力実態調査 ・学習支援員派遣事業
 ・学力定着支援事業 ・理数大好きプロジェクト
 ・アフタースクール学習支援事業

R1施策評価
4.3

【NEXT】

○確かな学力・豊かな心・健やかな身体を育む教育を進めます。

●施策の目標

指標1	全国学力調査B問題(小6・国語)で全国平均を上回った児童の割合(%)→H29～全国学力調査B問題(小6・国語)で全国平均正答率に対する新潟市平均正答率の割合(%)						R1評価
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		61.7	61.9	104.0	104.0	104.0	
進捗状況	70.7	68.5	63.5	106.4	108.0	107.8	
指標2	全国学力調査B問題(小6・算数)で全国平均を上回った児童の割合(%)→H29～全国学力調査B問題(小6・算数)で全国平均正答率に対する新潟市平均正答率の割合(%)						R1評価
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		59.7	59.9	104.0	104.0	104.0	
進捗状況	73.4	56.0	50.0	103.3	103.1	100.9	
指標3	全国学力調査B問題(中3・国語)で全国平均を上回った児童の割合(%)→H29～全国学力調査B問題(中3・国語)で全国平均正答率に対する新潟市平均正答率の割合(%)						R1評価
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		53.2	53.4	104.0	104.0	104.0	
進捗状況	67.3	66.1	49.0	101.9	102.5	102.3	
指標4	全国学力調査B問題(中3・数学)で全国平均を上回った児童の割合(%)→H29～全国学力調査B問題(中3・数学)で全国平均正答率に対する新潟市平均正答率の割合(%)						R1評価
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		61.2	61.3	104.0	104.0	104.0	
進捗状況	62.8	48.2	52.0	102.3	104.1	102.8	
指標5	児童質問紙「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」で、肯定的な回答をした児童(小6)の割合(%)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		84.0	84.5	85.0	86.0	86.0	
進捗状況	83.1	87.7	87.4	88.7	82.1	83.8	
指標6	児童質問紙「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」で、肯定的な回答をした児童(小6)の割合(%)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5
指標目標		70.5	71.0	72.0	73.0	74.0	
進捗状況	69.8	70.7	74.4	74.3	81.2	82.1	
指標7	生徒質問紙「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」で、肯定的な回答をした生徒(中3)の割合(%)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		80.0	80.5	81.0	84.0	84.0	
進捗状況	79.1	85.0	84.2	86.1	81.2	82.8	
指標8	生徒質問紙「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」で、肯定的な回答をした生徒(中3)の割合(%)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5
指標目標		70.0	71.0	72.0	73.0	74.0	
進捗状況	69.0	70.5	71.6	73.2	85.1	80.7	

・継続した授業改善の取組により、全国学力調査は、全教科で全国平均正答率を上回った。

○【全国学力・学習状況調査による学力実態:正答率】

・国語……小学校:68.8%(全国比+5.0)
 中学校:74.4%(全国比+1.6)
 ・算数数学…小学校:67.2%(全国比+0.6)
 中学校:61.4%(全国比+1.7)
 ・中学英語…中学校:56.2%(全国比+0.3)

○算数・数学および理科の単元評価問題の配信を継続している。各校においては、実態に応じて活用方法を工夫している。

○令和元年度は、201人の学習支援ボランティアが登録され、授業等の補助などに当たり、各校で有効に活用されているとともに感謝の声が寄せられた。

○理科支援員配置の希望の募集を行い、これまでの配置状況から検討し、31校に理科支援員を配置した。

○学級・学校の「支持的風土の醸成」の推進により、話し合う活動に関する評価が高くなってきている。

○アフタースクール学習支援事業については、1-（1）に記載のとおり。

1-(4) アグリ・スタディ・プログラムの推進

主な事業 ・「アグリ・スタディ・プログラム」に基づく体験学習の推進事業

R1施策評価
4.0

【NEXT】

○確かな学力・豊かな心・健やかな身体を育む教育を進めます。

●施策の目標

指標1	「アグリ・スタディ・プログラム」に基づく体験学習を実施している小学校の割合(%)						R1評価
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
進捗状況	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
指標2	アグリ・スタディ・プログラム評価・サポート委員会によるプログラムの検証率(%)						R1評価
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標	25.0	50.0	75.0	100.0	100.0	100.0	
進捗状況	-	25.0	50.0	75.0	100.0	100.0	

・すべての小学校が「アグリ・スタディ・プログラム(ASP)」に基づく体験学習を実施した。

○第1回ASP総合推進会議を5月に実施。ASP評価・サポート委員会を7月に実施し、ASPの改善点の検討を実施した。

○ASP研修会の4回開催、活用のポイントを周知、各校の年間指導計画や総合の計画の中に、ASPをどのように位置づけるかの具体的な検討を行った。

1-(6) 読書活動の推進と新聞活用の充実

主な事業 ・学校図書館活用推進事業 ・学校図書館支援センター事業
・学校図書館支援事業 ・新聞活用の推進

R1施策評価
1.8

【NEXT】

○子どもの読書活動を推進するとともに、市民が自ら課題解決を図るための読書環境を充実していきます。

●施策の目標

指標1	学校図書館を活用した授業を「月に数回程度」行った小学校の割合(%)						R1評価
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	1
指標目標	77.2	78.0	79.0	80.0	81.0	82.0	
進捗状況	77.2	75.6	46.8	74.7	75.5	37.0	
指標2	学校図書館を活用した授業を「学期に数回程度」行った中学校の割合(%)						R1評価
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	1
指標目標	55.1	56.0	57.0	58.0	59.0	60.0	
進捗状況	55.1	62.1	55.2	71.9	70.2	44.6	
指標3	中学生の不読率(%)						R1評価
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	1
指標目標	12.1	12.0	11.5	11.0	10.5	10.0	
進捗状況	12.1	12.3	11.8	11.4	12.3	12.8	
指標4	ほぼ毎日新聞を読む中学生の割合が、全国平均を上回る(ポイント)→H29～週に1回以上新聞を読む中学生の割合が、全国平均を上回る(ポイント)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標	2.7	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	
進捗状況	2.7	1.0	1.1	1.6	2.5	2.8	

・新聞活用教育の取組が定着してきている一方、読書活動の推進に課題が残った。

○学校図書館支援センター事業において、学校図書館賞の受賞をはじめ、「北信越地区学校図書館研究大会(新潟大会)」等での発表を通じて、本市の取組を広く発信した。

○評価が下がった理由として、新型コロナウイルス感染症対策のため、3月の図書館活用ができなかったことに加え、北信越規模の研究大会の実施により、司書の意識が高まったことによると捉えている。

具体的には、「学校図書館を活用した授業」が、単に授業での活用に限らず、探究的な学習に資する授業になったかという、より高次の基準で評価したためと分析している。

○中学生の不読率の課題に対し、令和2年度からの第三次新潟市子ども読書活動推進計画において、十代への働きかけを重点施策とした。

○新聞活用教育(NIE)推進校として、小学校13校、中学校3校を指定し、新聞の複数紙配置をした。各校の計画に基づき実践が行われた。

2 豊かな心と健やかな体の育成

2-(2) 一人一人の成長を促す生徒指導の推進

主な事業 ・いじめ対策等生徒指導推進事業
・教育相談ネットワーク事業
・カウンセラー等活用事業

R1施策評価

【NEXT】

○確かな学力・豊かな心・健やかな身体を育む教育を進めます。

●施策の目標

指標1	新潟市生活・学習意識調査の「自律性」「社会性」にかかわる質問項目のうち、肯定的な回答が前年度の数値を上回った項目の割合(%)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5
指標目標	61.1	66.7	66.7	67.0	70.0	75.0	
進捗状況	61.1	83.3	69.2	90.9	83.7	84.1	
指標2	小学校 いじめ解消率(%)※「解消率」…「解消」と「一定の解消」を合わせたものの割合						R1評価
Ⅱ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標	96.2	100.0	100.0	97.0	97.0	97.0	
進捗状況	96.2	99.1	95.8	97.4	98.3	98.9	
指標3	中学校 いじめ解消率(%)※「解消率」…「解消」と「一定の解消」を合わせたものの割合						R1評価
Ⅱ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標	94.5	100.0	100.0	97.0	95.0	95.0	
進捗状況	94.5	96.3	98.1	94.2	96.4	97.2	
指標4	小学校 不登校(30日以上欠席)発生率(%)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
指標目標	0.40	0.38	0.38	0.38	0.40	0.64	
進捗状況	0.40	0.40	0.44	0.56	0.69	未発表	
指標5	中学校 不登校(30日以上欠席)発生率(%)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
指標目標	2.69	2.65	2.62	2.60	2.64	3.23	
進捗状況	2.69	2.64	2.64	3.11	3.63	未発表	

・いじめの未然防止、早期発見、対処に関する取組が進んでいる。

○いじめ・不登校の適切な対応のために、「教頭研修」「生活指導主任研修」「初任者研修」「中堅教諭等研修」「事務職員5年目研修」「要請訪問研修」等で、その概論と対応に関する研修を実施した。

○児童・生徒の自律性・社会性の育成及び問題への適切な対応に向けて、学校訪問等の機会をとらえて、指導・支援を行った。

○いじめ防止市民連絡協議会を実施し、いじめの現状について情報共有を図るとともに、未然防止等に向けた取組や具体的な事案への対応の検討等を行った。

○各学校からの欠席報告を確実にし、区教育支援センター、教育相談センター、訪問教育相談員、各区教育相談室など、不登校にかかわる機関で情報を共有し、不登校の未然防止の意識を高めた。不登校児童生徒数の多い学校には、直接訪問し減少に向けた取組について指導した。

○不登校児童生徒に対する組織的な支援と、小中一貫した継続的な支援のために「児童生徒理解・教育支援シート」の活用準備を進めた。

※指標4と指標5の小中学校の不登校数は、文部科学省が発表する「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の数値を入れることになりましたが、現時点では文部科学省による調査結果が未発表であるために、令和元年度の評価が空欄となっています。そのため、全体の施策評価も空欄としています。

3 創造性に富み、世界と共に生きる力の育成

3-(2) 外国語教育・国際理解教育の充実

主な事業 ・外国語指導助手(ALT)配置事業
・国際交流事業
・外国語教育支援事業

R1施策評価
4.0

【NEW】

○世界とともに生き創造性を発揮する新潟の子どもや市民の育成を目指し、コミュニケーション能力向上とICT活用への取組を進めます。

●施策の目標

指標1	新潟市生活・学習意識調査(小6)で「外国語活動の勉強が好き」と回答した児童の割合(%)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標	74.5	73.8	81.1	78.2	74.0	71.6	
進捗状況	56.0	54.6	56.7	60.6	59.1	60.8	
指標2	新潟市生活・学習意識調査(中3)で「外国語活動の勉強が好き」と回答した生徒の割合(%)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標	56.5	56.5	57.0	61.0	60.0		
進捗状況	56.0	54.6	56.7	60.6	59.1	60.8	

・外国語授業の充実のため、教員及びALTの研修の充実を図った。

○ALT研修会において、具体的な事例を挙げて課題の共有と改善案の検討を行い、授業改善を推進した。

○小中高の連携を深め、好事例の共有と実践を推進するため、小中においては研修協力校を中学校区で指定したことにより、課題の共有と改善案の検討が円滑に行われた。高校段階では、中等教育学校後期課程を新たに研修協力校として、統合的な言語活動を通して発信力の向上を目指す取組を推進することにより、思考力・判断力・表現力の育成を図る授業改善を推進した。

○令和2年度の小学校5,6年生における外国語の教科化に向けて、採択された教科書に基づいた指導と評価の一体化に係る総括的評価の計画(新潟市教育委員会案)を示すことができた。

3-(3) 情報教育の充実とICTを活用した教育の取組

主な事業 ・タブレット等ICT活用研修(教職員研修)

R1施策評価
4.7

【NEW】

○世界とともに生き創造性を発揮する新潟の子どもや市民の育成を目指し、コミュニケーション能力向上とICT活用への取組を進めます。

●施策の目標

指標1	コンピュータ等(タブレットPCを含む)の情報通信技術を活用して、子どもが学ぶに合う協働学習や課題解決型の学習指導を実施した小学校教職員の割合(%)						R1評価
Ⅱ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5
指標目標	66.6	66.6	70.0	90.0	90.0		
進捗状況	65.7	60.3	98.0	100.0	92.5	99.1	
指標2	コンピュータ等(タブレットPCを含む)の情報通信技術を活用して、子どもが学ぶに合う協働学習や課題解決型の学習指導を実施した中学校教職員の割合(%)						R1評価
Ⅱ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5
指標目標	51.0	51.0	55.0	55.0	55.0		
進捗状況	50.0	50.0	97.0	98.2	94.7	98.3	
指標3	「アクティブ・ラーニング」の実施した学校の割合(%)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
進捗状況	92.0	95.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

・小中学校で、情報通信技術を活用した協働学習や、課題解決型の学習指導が定着してきている。

○教職員の指導スキルの向上を図る研修会を5月14日～16日の3日間実施した。ICT機器を活用した協働型・双方向型の授業が実践されるように、ICT機器の更新等、学習環境の整備について、関係課等と連携して取り組んだ。

○学校訪問を通じて主体的・対話的で深い学びのある授業を推進するよう働き掛けてきた。その結果、教職員一人一人に「アクティブ・ラーニング」を進めることで社会の変化や課題に適切に対応できる力を育むことができるという意識を高めることができた。

3-(5) 海外帰国・外国人児童生徒への教育の推進

主な事業 ・日本語指導協力者派遣事業
・外国人児童生徒への支援体制の整備

R1施策評価
4.0

【NEW】

○世界とともに生き創造性を発揮する新潟の子どもや市民の育成を目指し、コミュニケーション能力向上とICT活用への取組を進めます。

●施策の目標

指標1	日本語指導協力者の指導により、日常会話ができるようになった子どもの割合(%)						R1評価
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0		
進捗状況	85.0	81.8	82.1	85.0	91.4	86.3	

・海外帰国・外国人児童生徒が学校生活にスムーズに適応できた。

○各校から要請のあった児童生徒44名(33校)に対して、延べ33名の日本語指導協力者を派遣した。派遣回数は、児童生徒の日本語能力の実態及び、予算から算出できる派遣可能な回数を最大限に考慮し、583回の派遣を行った。また、母語が分かる協力員の派遣も268回実施することができた。

○帰国・外国人児童生徒の増加による日本語指導協力者不足解消のため、新たに1名採用した。

4 共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育システムの推進

4-（1）子ども一人一人のニーズと課題に対応した特別支援教育の推進

主な事業・インクルーシブ教育システム構築の推進事業

R1施策評価
1.0

【NEW】

○共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育システムの構築に向けた取組を始めます。

●施策の目標

指標1	各年度内に特別支援教育に関する公的研修を受講した教員(幼・小・中・高)(人)						R1評価
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	1
指標目標	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	
進捗状況	1,500	1,616	1,585	1,749	1,460	1,098	

・特別支援教育に関する公的研修の定着とともに、ニーズに応じた人的な支援を充実することができた。

○評価の下がった理由は、働き方改革を推進する中で、研修の回数を減らしたことによる参加者の大幅な減少による。しかし、各研修会の内容を充実させ、より課題やニーズに応じたものとした。今後、この指標は受講者の理解度等に変更する。

○配置基準に従って、対象の児童4名に対して学校看護師を配置した。支援ニーズに応じた人的な支援を充実することができた。

○明鏡高等学校の通級指導教室について、運営、指導・支援についての評価を行い、引き続きより生徒への支援が充実するよう努めた。

4-（3）早期からの就学相談・支援の充実

主な事業・早期からの就学支援の推進

R1施策評価
5.0

【NEW】

○共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育システムの構築に向けた取組を始めます。

●施策の目標

指標1	入学支援ファイルの活用件数(年度ごとの数)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5
指標目標	300	350	310	350	400	400	
進捗状況	280	331	315	362	446	450	

・小学校新入学生の「入学支援ファイル」の活用状況が高まってきている。

○就学前の保護者・幼児教育・保育・療育・相談機関からの願いと、支援情報を学校に引き継ぐための連携ツールである「入学支援ファイル」を、相談会参加の保護者に配布した。配布の際に具体的な活用方法、作成手順、有効性を示した。

○「入学支援ファイル」活用状況調査において、新入生の「入学支援ファイル」の提出数は450人であり、全新生の7.3%(前年比+0.4ポイント、一昨年度比+1.7ポイント)が提出している。小学校に「入学支援ファイル」の目的や活用について周知したこと、就学相談会時の保護者への丁寧な説明が増加の一因と考える。

5 校種間・学校間連携を活かした特色ある学校・園づくり

5-（1）新潟市にふさわしい小中一貫した教育の取組

主な事業・小中一貫教育パイロット事業
・学校間連携推進事業

R1施策評価
4.0

【NEW】

○未来の新潟を担う子どもたちの生きる力の育成のため、校種間の連携をさらに進めます。

●施策の目標

指標1	新潟市一貫教育推進協議会(回)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標	発足	発足	3	2	2	2	
進捗状況	-	発足	3	2	2	2	
指標2	新規パイロット事業実施中学校区数(延べ数)→H29～新潟市にふさわしい小中一貫した教育に取り組んだ中学校区数(延べ数)						R1評価
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標	-	-	4	8	24	40	
進捗状況	-	-	4	8	26	40	
指標3	学び方等、共通の取組を設定した中学校(校区数)						R1評価
Ⅱ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標	56	56	56	56	56	56	
進捗状況	-	55	56	56	56	56	

・「新潟市の小中一貫した教育」についての基本方針及び実践事例をまとめ、周知することができた。

○小中一貫教育部会では、各パイロット中学校区の実践報告をはじめ、これまでの取組の成果と課題について協議を行った。成果としては、「学習課題とまとめ、振り返りのある授業」の実践レベルでの同一指導の進捗、学習規律の定着、「9年間を見通した生活科・総合的な学習の時間」による学びの深化、いわゆる中一ギャップ防止への一定の効果、子どもたちの自己肯定感の高揚等が挙げられた。課題としては、活動日程や打合せ時間の確保や取組の取捨選択の必要性、目的を職員間で共有することの必要性等を示すことができた。

○全市展開に向けホームページを更新し、各中学校区で一貫した教育を進める際の参考になるようにした。

5-2 幼児教育の充実と幼保小連携の推進

主な事業 ・幼保小連携推進事業
・幼保小合同研修会

R1施策評価
4.3

【NEW】

○未来の新潟を担う子どもたちの生きる力の育成のため、校種間の連携をさらに進めます。

●施策の目標

指標1	幼稚園・保育園との連携の充実を図り、小学校への円滑な接続を図るための教育懇談会を実施した小学校の割合(%)						R1評価
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		10.0	95.0	100.0	100.0	100.0	
進捗状況	-	90.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
指標2	接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている小学校の割合(%)						R1評価
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5
指標目標		10.0	40.0	70.0	70.0	70.0	
進捗状況	-	30.0	72.0	72.0	82.0	86.0	
指標3	接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている市立幼稚園の割合(%)						R1評価
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		27.3	90.0	100.0	100.0	100.0	
進捗状況	-	81.2	100.0	100.0	100.0	100.0	
指標4	隣接する小学校区における、幼稚園、保育園、小学校等の職員を交えた研究保育を年間複数回実施した市立幼稚園の割合(%)						R1評価
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		18.1	63.6	90.0	90.0	90.9	
進捗状況	-	54.5	90.0	90.0	90.0	90.0	

・各種の研修会を通じて、新潟市共通接続カリキュラム(アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム)についての意識・理解が高まった。

○私立幼稚園・保育園・こども園の研修会と市立幼稚園の研究保育・研修会が相互に案内され、参加することにより、連携が図られた。

○すべての市立私立幼稚園、保育園、こども園の園長及び実務者対象に、アプローチ・カリキュラム作成研修会を実施し、連携について指導・助言したことにより、幼小連携、幼保小連携が図られた。

8 生涯を通じて学び育つ学習機会の充実

8-2 学び育つ各世代への支援

主な事業 ・にいがた市民大学開設事業 ・現代的課題を学ぶ公民館事業
・学習成果を発表する場の提供 ・子どもの読書環境の整備
・子どもが読書に親しむ機会の充実
・仕事やくらしの課題解決のための情報提供事業

R1施策評価
4.3

【NEXT】

○子育てや各世代の学びに対する支援に努め、地域の教育力の活用を推進します。

●施策の目標

指標1	にいがた市民大学の受講率(%)						R1評価
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5
指標目標		95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	
進捗状況		84.5	122.5	112.5	92.0	100.7	
指標2	現代的課題を学ぶ事業の実施						R1評価
IV型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	/
指標目標		実施	実施	実施	実施	実施	
進捗状況	-	実施	実施	実施	実施	実施	
指標3	文化祭・芸能祭等の実施						R1評価
IV型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	/
指標目標		実施	実施	実施	実施	実施	
進捗状況	-	実施	実施	実施	実施	実施	
指標4	児童書の貸出冊数(冊)12歳以下の子ども1人あたり						R1評価
III型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		12.2	12.4	13.2	13.1	13.2	
進捗状況		12.1	13.1	13.0	13.2	13.2	
指標5	レファレンス受付件数(件)						R1評価
III型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		72,000	72,800	90,000	99,000	94,000	
進捗状況		69,600	83,157	94,580	98,077	93,559	

・市民に向けた学びの場の確保に努めた。

○にいがた市民大学では、基本講座を4講座、大学コンソーシアム連携講座を1講座、特別講座を1講座実施した。市民の興味・関心の高い講座や積極的な広報活動を行った結果、高い受講率となった。特別講座は基本講座の中で受講率や満足度の高い講座をアンコール実施したことで、新しい受講者の参加も見られ、市民大学への関心を高めることができた。

○受講修了者による自主グループ化の支援を行い、新たに2グループが自主活動を行うようになった。平成30年度に活動を始めた自主グループ「プログラミング学習支援・勉強会」が、「大人向けプログラミング勉強会」として、学校の放課後パソコンクラブのボランティア活動に取り組んだ。○高齢者の健康や生きがいづくりについての講座を実施したほか、高齢者の社会参加や自立、地域単位での支え合いなど、全国的課題でもある超高齢化社会をテーマとした講座にも取り組むことができた。

9 地域と学校・社会教育施設が協働する教育の推進

9-1 地域と共に歩む学校づくりの推進

主な事業 ・地域と学校パートナーシップ事業
・ふれあいスクール事業
・公民館出前型事業

R1施策評価
4.0

【NEXT】

○学・社・民の融合による教育を推進します

・学校とボランティア、そして公民館等の協働がより一層進んだ。

●施策の目標

指標1	1校あたりの学校支援ボランティア(延べ人数)						R1評価
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		1,240	1,270	1,640	1,670	2,020	
進捗状況		1,210	1,531	1,611	1,664	1,989	
指標2	ふれあいスクール週当たり開催(日数)→H29~ふれあいスクール年間開催(1校当たり日数)						R1評価
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	2
指標目標		2.00	2.10	49	51	53	
進捗状況		1.93	1.97	2.02	49	43	
指標3	土曜プログラムモデル実施校数(校)→H29~土曜プログラム活用校数(校)						R1評価
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5
指標目標		4	4	20	24	27	
進捗状況	-	4	4	24	34	32	
指標4	公民館出前型事業の実施校数(校)						R1評価
III型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5
指標目標		66	67	94	103	120	
進捗状況		66	72	89	103	127	

○各校におけるのべ事業数・ボランティア数が着実に伸びており、学習活動の充実、子どもたちの人間関係の広がりや深まり、子どもたちが認めてもらえる機会の増加がみられる。また、学校の地域貢献活動や社会教育施設及び地域コミュニティ協議会との協働事業も充実してきている。

○ふれあいスクールに関する目標が達成できなかった理由として、インフルエンザの流行を予測しての中止が増えたこと、新型コロナウイルス対応のため3月に開催ができなかったことが挙げられる。

○子ども対象の体験講座や高齢者も参加可能な学習講座など、多種多様な公民館講座を学校を会場に実施することができた。公民館・地域・学校が連携することで、地域住民が学校に足を運ぶ機会や地域住民と子どもたちの交流の機会を創出することができた。

9-(4) 高等教育機関及び企業との連携推進

主な事業・高等教育機関活用推進事業
・図書館と教育機関・企業との連携・協力

R1施策評価
4.7

【NEW】

○学校や公民館・図書館などにおいて、多様なニーズに応じた学習機会の充実を図るため、企業や民間団体と連携する取組を始めます。

●施策の目標

指標1	高等教育機関からの専門的な情報提供、指導等を受けている教育課題(課題)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標	2	3	3	4	4	4	
進捗状況	1	2	3	4	4	4	
指標2	にいがた市民大学の受講率(%)						R1評価
Ⅰ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5
指標目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	
進捗状況	84.5	122.5	112.5	92.0	92.0	100.7	
指標3	連携・協力の実施状況(連携事業数)(件)						R1評価
Ⅰ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5
指標目標	9	9	9	9	9	9	
進捗状況	9	11	11	10	10	11	

・高等教育機関・企業等と連携・協力し、多様なニーズに応じた学習機会を提供した。
○文部科学省事業「生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業」を活用し、高志中等教育学校の後期課程において、指導と評価の一体化を図るべく、大学の教授を複数回招聘し、様々な指導を受けることができた。
○高等学校通級指導については、明鏡高等学校での自校通級指導の充実に取り組んだ。今後は、市立高等学校において、有効な通級指導の在り方について考えていく。
○新潟大学附属図書館と県立図書館との間で、配本ネットワークを実施し、利用者への本の提供を迅速に行うことができた。また、3館連携事業として秋に講演会を開催した。

10 学びのセーフティネットの構築に向けた取組の推進

10-(1) 防災・安全教育の充実

主な事業・「防災教育」学校・地域連携事業(ふるさと新潟防災教育推進事業)

R1施策評価
4.0

【NEW】

○ニーズと課題に迅速に対応できる教育行政のシステムづくりと学びのセーフティネットの整備を進めます。

●施策の目標

指標1	「防災教育」学校・地域連携事業指定校数(校・累計)						R1評価
Ⅱ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標	34	68	102	136	166	166	
進捗状況	8	34	69	102	134	166	

・「防災教育」学校・地域連携事業により、小中学校及び地域と連携した自校化プログラムの作成が進んでいる。
○「防災教育」学校・地域連携事業で32校を指定し、各中学校区における防災教育の現状と課題を共有し、小中及び地域と連携した自校化プログラム作成について協議を行った。
○防災教育の自校化プログラム作成は、5年をかけて全学校で行い、冊子としてまとめた。令和2年度以降は、市の防災課との連携により進めていく予定である。

10-(4) 学びを支援する体制の整備と充実

主な事業・就学援助事業
・奨学金貸付事業(高校～大学院)
・社会人奨学金貸付事業

R1施策評価
4.0

【NEW】

○ニーズと課題に迅速に対応できる教育行政のシステムづくりと学びのセーフティネットの整備を進めます。

●施策の目標

指標1	就学援助制度の保護者への周知率(%)小学校						R1評価
Ⅱ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
進捗状況	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
指標2	就学援助制度の保護者への周知率(%)中学校						R1評価
Ⅱ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
進捗状況	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
指標3	奨学生(高校～大学院)の採用率(%)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
進捗状況	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
指標4	奨学生(社会人)の採用率(%)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
進捗状況	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
指標5	ふれあいスクール週当たり開催(日数)→H29～ふれあいスクール年間開催(1校当たり日数)						R1評価
Ⅰ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	2
指標目標	2.00	2.10	49	51	53	53	
進捗状況	1.93	1.97	2.02	49	43	40	
指標6	土曜プログラムモデル実施校数(校)→H29～土曜プログラム活用校数(校)						R1評価
Ⅰ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5
指標目標	4	4	20	24	27	27	
進捗状況	-	4	4	24	34	32	
指標7	放課後の学習支援をする中学校(校)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標	56	56	56	56	56	56	
進捗状況	-	56	56	56	56	56	

・就学援助事業、奨学金貸付事業を着実に実施し、保護者や採用者に対しての経済的負担の軽減を図った。

○就学援助は、私立学校も含めて全ての小中学校で、4月に保護者全員に「就学援助制度についてのお知らせ」を配付した。児童生徒数57,506人のうち、認定者12,925人の保護者に対して、学校にかかる学用品費や給食費等の一部を援助し、保護者の経済的負担の軽減を図った。

○奨学金制度は、募集定員98人に対し、83人の申請があり、選考基準を満たす74人を採用決定し、貸し付けを行い、高等教育の機会均等を図った。また、本市への定住促進を図るため、返還者に「返還特別免除制度」チラシを納付書に同封した。

○社会人奨学金制度は、募集定員5人に対し、1人の申請があり、基準を満たし採用を決定し、キャリアアップを目指す社会人学生に対して経済的支援を行った。

11 学校教育・生涯学習環境の基盤整備

11-1 効果的な指導を支援する施設設備の充実

主な事業 ・学校ICT環境整備事業
・教育ネットワーク構築事業

R1施策評価

4.0

【NEW】

○世界とともに生き創造性を発揮する新潟の子どもや市民の育成を目指し、コミュニケーション能力向上とICT活用への取組を進めます。

●施策の目標

指標1	タブレット型コンピュータを整備した小・中学校の割合(%)						R1評価
Ⅱ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		34.0	68.0	90.0	100.0	100.0	
進捗状況	5.0	34.0	68.0	90.0	100.0	100.0	
指標2	教育ネットワークの構築						R1評価
Ⅳ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		調査・研究	調査・研究	導入方法検討	計画策定	開発	
進捗状況	-	調査・研究	調査・研究	調査検討	計画(案)策定	構築着手	

・**学校内のコンピュータ教室用の端末等機器、教職員用コンピュータの更新を計画どおりに実施した。**

○教育用コンピュータ、校内LANコンピュータ、教職員用コンピュータの更新を計画どおり実施した。

・教育用コンピュータ更新完了は23校、計797台(内タブレット736台)

・校内LAN用コンピュータ更新完了は21校、計63台(タブレットの更新対象なし)

・教職員用コンピュータ更新完了は17校園、計95台

○教育ネットワーク構築事業について、通信回線事業者の選定を行い、回線敷設業務に着手した。また教育ネットワーク基盤および統合型校務支援システムの構築業務について、仕様書を作成し、総合評価一般競争入札により事業者を決定し、構築業務に着手した。

12 市民に信頼される教育関係職員の育成

12-1 教育関係職員の研修プログラムの充実

主な事業 ・教育関係職員の研修プログラムの一層の充実
・学社民融合研修の推進

R1施策評価

4.3

【NEXT】

○市民から信頼される学校・教育機関となるよう、人材の育成と職場の環境整備を進めます。

●施策の目標

指標1	各研修講座における受講者の満足度と活用度(%)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		80.0	85.0	85.0	88.5	90.0	
進捗状況	80.0	87.0	87.5	88.1	91.1	90.4	
指標2	マイスター養成塾修了者(人)						R1評価
Ⅱ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		102	108	110	128	133	
進捗状況	102	103	110	121	128	135	
指標3	学社民融合研修会の実施(回)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5
指標目標		7	7	7	8	8	
進捗状況	7	7	7	8	8	11	

・**研修プログラムの改善により、講座受講者の評価が高まり、研修効果が着実に上がっている。**

○令和元年度に教育関係職員の研修プログラムとして実施した講座は以下のとおりである。

・キャリアステージ研修49講座、延べ受講者数4,353人

・専門研修57講座、延べ受講者数3,379人

○マイスター養成塾では計14名が受講した。大きな伸びを見せる受講者が目立ち、研修成果は着実に上がった。

○第1回パートナーシップ事業研修会では、公民館の学社民融合支援主事、図書館職員が参加して、地域教育コーディネーターとの情報交換を行い、ネットワークづくりを促した。第2回研修会では、新任校長を対象として実施した。

13 ニーズと課題に応える教育行政の創造

13-1 新潟らしい教育改革の推進

主な事業 ・区教育ミーティングの開催
・中学校区教育ミーティングの開催

R1施策評価

4.0

【NEW】

○ニーズと課題に迅速に対応できる教育行政のシステムづくりと学びのセーフティネットの整備を進めます。

●施策の目標

指標1	区教育ミーティングの開催(回)						R1評価
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		16	16	16	16	16	
進捗状況	16	16	16	16	16	16	
指標2	中学校区教育ミーティングの実施回数(累計中学校区数)→H29~(中学校区数)						R1評価
Ⅱ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	4
指標目標		32	56	28	28	16	
進捗状況	8	32	56	28	28	16	

・**教育委員が各教育ミーティングに参加し、地域や中学校区の現状・課題を共通理解した。**

○区教育ミーティングでは、教育委員会の施策について情報提供し、施策全般及び「保護者・地域・学校の連携」をテーマとし意見交換を行った。地域で目指す子どもの姿を共有し、育む体制づくりにつなげるため、地域における現状や課題について、参加者と教育委員で活発な意見交換が行われた。

○中学校区教育ミーティングでは、「保護者・地域・学校の連携」をテーマとし、これまで実践したものについて振り返り、地域で目指す子どもの姿に関し、これから保護者・地域・学校で連携・協力できることについて、参加者と教育委員で活発な意見交換が行われた。

※中学校区教育ミーティングの実施回数は、平成30年度までは2年間で全中学校を実施したが、令和元年度以降は3年間で全中学校区を実施する予定である。

3 教育ビジョン推進委員からの主な質問・意見・要望と教育委員会の対応

第45回新潟市教育ビジョン推進委員会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止しましたが、推進委員より施策最終評価への質問・意見・要望を書面にいただき、教育委員会の回答をお返ししました。80件を超えるやり取りのうち、重点である「NEXT&NEW」に該当する一部を紹介します。

施策1-(4)「アグリ・スタディ・プログラムの推進」

○アグリ・スタディ・プログラムについては、すでに進捗状況が100%であり、取組の内容に関した新たな評価方法にしてはどうでしょうか。

⇒令和2年度からの第4期実施計画では、「アグリ・スタディ・プログラムに基づいて、アグリパークで学習した小中学生のうち、アンケートで自然や農業への関心が高まったと回答した小中学生の割合」に評価指標を変更しました。抽出評価ではありますが、より子どもたちの実態把握ができると考えています。

施策1-(6)「読書活動の推進と新聞活用の充実」

○「学校図書館を活用した授業」という言葉の解釈がより高次のものになったということは理解しました。令和元年度に評価が大きく下がったということであれば、言葉の意味の共通理解を図り、指標の見直しもすると良いと思います。中学生の不読率は深刻な問題です。新たな手立てを講じる必要があると思います。

⇒例年行われている各学校へのアンケート（図書館教育担当者、図書館司書のどちらかが回答）の評価基準を明確にするために、実施した学級数などで判断できるように明示します。また、年度途中で、ビジョンの評価基準について共通理解します。さらに、中学生の不読率について、今年度は授業時数の確保のために、朝読書の設定などだけでは難しいと考えます。「うちどく」のように家庭での時間を有効活用した取組も推奨するとともに、電子書籍での読書についても状況を把握し、コロナ禍であっても、本に触れる機会を保障していきます。

施策2-(2)「一人一人の成長を促す生徒指導の推進」

○不登校の発生率が残念ながら高くなってきています。その理由はどこにあるのでしょうか。その一方で、不登校傾向ながら欠席が30日にならない児童生徒が増えていることはとても良いことです。初期対応ガイドブックを活用した研修等を指標に入れると良いと思います。

⇒不登校発生率は全国的にも増加傾向となっています。その要因は子どもがうまく人間関係を築けなかったり、家庭内に問題があったりするなど千差万別です。新潟市も増加傾向となっておりますが、増加率については全国の数値と比較すると低く抑えられています。また、不登校傾向ながら欠席30日未満の児童生徒が増えていることについては、本市の各学校が初期対応を的確に行い長期欠席を防いでいる結果とも言えます。なお、初期対応ガイドブックの活用については研修等も含めて、有効活用に向けて検討を重ねていきたいと考えています。

施策3-(3)「情報教育の充実とICTを活用した教育の取組」

○いよいよGIGAスクール構想での全児童生徒1人1台タブレットが、新潟市でも令和2年度末に配布されると伺っています。今後のICT職員研修は、学校から数名参加ではなく、動画配信でも良いですので、全員が研修を受講できる工夫をお願いしたいです。

⇒ICT機器の研修については、令和2年8月から12月までの間に、全校が参加する研修を4回開催します。また、各研修会をオンラインで実施することにより、3密を防ぐとともに、各校で複数の教職員が研修できるようにします。これらの研修会を通して、ICT機器の使い方だけでなく、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力が効果的に育成されることを教職員が実感できるようにし、1人1台端末が導入された際に、すべての教職員が不安なくICT機器を活用できるように、計画的に進めていきます。

施策4-(1)「子ども一人一人のニーズと課題に対応した特別支援教育の推進」

○指標1「特別支援教育に関する公的研修を受講した教員」の数値が大きく減少したことに關して、「働き方改革」を進めることで研修参加者が減少せざるを得なかったことは理解できません。また研修によって各教員がインクルーシブ教育の重要性を理解することの必要性も理解できますが、これ以外にもより実効的な指標を設定する必要があると思います。

⇒第3期実施計画において、参加者数だけを指標にしたのは、合理的配慮について広く理解させるためのものだったと捉えています。第4期実施計画では、指標を参加者の理解度と、今後生かすことができるのかという視点に変更しました。特別支援教育の推進に向けて、研修の視点から実質的な高まりを目指します。

施策5-(1)「新潟市にふさわしい小中一貫した教育の取組」

○指標3「学び方等、共通の取組を設定した中学校区数」は高い数値となっており、ほとんどの学校で取り組んでいます。教職員による内容評価とし、具体的な小中学校の取組が、どのように改善されたのかなどの数値にしてはどうでしょうか。

⇒令和2年度から「小中一貫した教育」を本格的に推進します。今までは、パイロット校や各中学校区独自の取組でありましたが、そこから一步進め、第4期実施計画では、すべての中学校区で目指す子どもの姿を設定し、それを受け、小中合同の「共通プログラム」「独自プログラム」の策定に着手することになるため、その取組状況を指標目標とします。

施策8-(2)「学び育つ各世代への支援」

○にいがた市民大学は設立されてから20年以上経過していると思われます。この20年で各地の大学が市民向けの公開講座など、様々開催している中で、設立当初の高等教育を市民に提供するという一定の目的は果たされたのではないのでしょうか。時代の変化を見据え、学んだ成果を還元する循環型の生涯学習の実現のためにも、仕組みの改革が求められると思います。例えば、市民が企画した講座をもっと前面に出す、市民を企画段階から入れてプログラムづくりに反映するなど、市民力を育てることを計画できませんか。

⇒これまで、にいがた市民大学は、市民の主体的な学習活動を推進するため、時代や社会の変化並びに市民の学習ニーズに応じた多様な学習機会を提供するとともに、学びの成果を教育活動や地域に生かすため、受講修了者による自主グループ化を支援するなど、循環型生涯学習を推進する上で一定の役割を果たしてきました。その一方で、新潟市教育ビジョン第4期実施計画の中心的な考え方のテーマである「これからの社会をたくましく生き抜く力」を育てていくために、にいがた市民大学が取り組んできた学びの循環による人づくり、地域づくりを、さらに進めることが大切と考えています。今後、にいがた市民大学の運営方法について課題を整理し、市民企画講座の充実や受講修了者による自主グループ活動の支援を通して、市民力を育てていきたいと考えています。

施策9-(1)「地域と共に歩む学校づくりの推進」

○指標1「1校あたりの学校支援ボランティア延べ人数」ではボランティアの増加傾向が確認でき、とても良いことと思います。この値は各校からの報告値と推測しますが、ボランティアの具体的な定義を設定している（どの活動範囲の方々までを対象に集計した数値か）のであればご教示ください。

⇒新潟市の「地域と学校パートナーシップ事業」実施要項を受け、当該校長のもと、教育活動や課外活動を推進する際に参画・協働する人々（地域住民、保護者、関係機関の担当者、学生など）を指します。活動の範囲は、各教科や特別活動などの授業補助、学習支援、環境整備、登下校安全指導、学校行事におけるサポートなどです。

施策11-(1)「効果的な指導を支援する施設設備の充実」

○タブレット型コンピュータについては、「平成29年度に小学校1校に対して10台、中学校に13台整備することを目標とし、平成30年度に台数を確保した」とのことですが、1校あたり10台程度だと1クラス分に満たないと思いますが、足りない分はどのように運用しているのでしょうか。

⇒タブレット使用を学級ごとの予約制、または割り当て制とし、学級内でのグループ学習利用（3～4人／1台）を想定しています。なお、「GIGA スクール構想の実現」により、令和3年1月には児童生徒1人1台の端末整備を予定しています。

施策12-(1)「教育関係職員の研修プログラムの充実」

○「マイスター養成塾では、大きな伸びを見せる受講者が目立ち、研修成果は確実に上がった。」とあるが、実際に力量向上を客観的に示すエビデンス等がありますか。

⇒マイスター養成塾では、長年掛けて作り上げた25観点（下記の表を参照）による授業評価を行っています。受講者は2年間に10回以上の授業研修に取り組み、その度に授業評価を受けます。最終的にそれらの結果を総合して、外部の学識経験者による「認定審査委員会」によって認定されます。マイスターにふさわしいと判断されるためには、全ての授業研修で平均80%（20/25観点）をクリアすることが求められます。令和元年度の受講者については、5月の平均ポイントが61.0%であったものが、年度末には80.4%へと向上しています。

マイスター養成塾授業評価規準	
1 全ての子どもが学習に参加し、目を輝かせて課題を追究している。	14 机間指導やネームプレートの活用等により的確に実態を把握し、それに合わせて意図的指名、個別に配慮した支援等をしている。
2 子どもに学ぶ喜びや考える楽しさ、成長を味わわせている。	15 学習内容や学びの過程が明確に分かる板書等をしている。
3 単元・題材の目標が明確であり、単元・題材の評価規準の設定が適切である。	16 書き方のルールが指導され、子どもが自分の考えを整理するとともに、学習を振り返ることができるノート等を作っている。
4 単元・題材の目標や子どもの実態を基に教材分析・解釈を行うとともに、必要な手立てを講じている。	17 課題解決に向けた話し合いや体験的な活動を通して、子ども同士が気付きや考えを交流している。
5 教材分析・解釈のもと、学習内容を明確にし、子どもの興味・関心、子どもの実態を把握した上で、本時のねらいを設定している。	18 交流における子どもの多様な考えを整理し、価値付けることにより、子どもが学びを共有し深めている。
6 ねらい達成の規準となる授業終了の子ども姿が具体的に想定されており、その方法及び基準が適切である。	19 子どもの言葉を生かしながら、学習課題に正対して本時の学習のまとめを行っている。
7 教材の価値や子どもが学ぶ意義を明らかにし、子どもの実態を踏まえた教材分析・解釈を行っている。	20 子どもが学びを自覚するよう、学習の過程や変容を振り返らせたり、類題や発展問題を解かせたりしている。
8 子どもが課題解決に向かい、ねらいを達成するため、適切かつ明確な手立てを講じている。	21 適切な評価に照らして、子ども一人一人に本時のねらいが達成されている。
9 本時のねらいと子どもの実態、指導構想とが整合している。	22 子どもが落ち着いて学習に集中できるよう、授業時間が守られ、教室環境が整えられている。
10 子どもの興味・関心や問題意識を基に学習課題を設定している。	23 基本的な学習ルールが身に付き、違う考え方や見方を認め合う学習集団を組織している。
11 意図的な教材提示や教具の活用を行うことにより、子どもがやってみたい、考えてみたいという意欲をもって、追究に向かっていく。	24 子どもの言動を共感的に受け止め、良好なコミュニケーションをとっている。
12 明確で分かりやすい発問や補助発問により、子どもが教材や対象と主体的に関わり、見通しをもったり活発に思考したりしている。	25 必要に応じて、人権感覚をもって適切な注意や言葉掛けをしている。
13 適切で端的な説明・指示により、子どもが目的や方法を理解して活動に向かっている。	